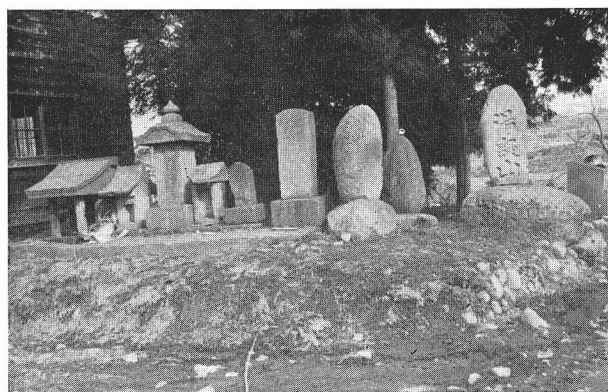


真渡の五霊神社



真渡五霊神社境内の供養碑

討伐した際、鎌倉権五郎景正が、敵の鳥の峯の矢三郎（弥三郎か）に左の目に矢を射込まれてもひるまず、七日七夜敵を追うて、ついにこの地で仕止めた。その若い勇将金五郎景正を祭って五郎の明神といい、五郎神社と呼んでいたものを、享保四年（一七一九）に正一位五霊神社として祭ったものであるという。この矢三郎は鬼渡神社として、村の東方五〇〇メートルほどの大川の土堤西に祭っている。榎の太木の下に、現在は蟹川村で祭っている石の小祠である。

これはやはり寺院縁起として、史実とは混じらないようにしておくのがよいかと思う。真渡は寛文五年の書上げなどには真綿と書き、現在は真宮とも書いている。どういいう意味がよくわからない。村中方二〇間の館があったと伝える。字名を館の内と呼んでいる。恐らく旧肝煎手代木佐平の屋敷辺と思われる。

寛文頃まで村東を流れる川